

中井金三 プロフィール

明治16年 鳥取県東伯郡小鴨村で生誕
明治30年 上京
明治36年 世田谷区の日本中学卒業
明治38年 東京美術学校（現在の東京藝術大学美術学部）入学
明治43年 東京美術学校卒業
大正2年 倉吉中学校（現在の倉吉東高等学校）教諭
大正9年 砂丘社創立
昭和20年 教職を定年退職
昭和44年 永眠

生まれは鳥取県東伯郡小鴨村ですが、小学校の頃家族で東京へ転居し世田谷区の日本中学を卒業しました。

その後、明治38年、東京美術学校（現在の東京藝術大学美術学部）に入学しました。黒田清輝の指導を受け、同級生に藤田嗣治、岡本一平（岡本太郎の父）、池部鈞、田辺至（東京藝術大学元教授）らがいました。

軽井沢で大貫かの子（岡本太郎の母）に出会い、岡本一平に手紙で報告した本人でもありました。（興味のある方は、瀬戸内晴美「かの子繚乱」をお読み下さい。）

藤田嗣治からの手紙には、金三の絵を「丁寧に親切にかく」と表現した文章が残っています。

東京美術学校を卒業する際、卒業制作が評価され、教員として東京美術学校に残るよう勧められていましたが、家庭の事情で帰郷することになりました。

その後、鳥取県倉吉市で美術教師としての道を進むことになり、指導した4名（前田寛治、前田利三、米本一郎、山柊行雄）が東京藝術大学美術学部に入りました。

前田寛治がフランス留学した際には、金三が中心となり学資を募るなど、渡仏の援助活動をしました。

また、地元で文化運動を興し、前田寛治や河本緑石らと「砂丘社」を結成しました。

河本緑石は、荻原井泉水の弟子にあたり、山頭火と兄弟弟子の様な関係にあった俳人です。盛岡農学校の同人誌仲間には宮沢賢治がいます。緑石の姉が金三の妻です。

金三は、中央画壇に絵を発表することがなかったため、画家としてはほとんど知られていません。地元倉吉市では教育者として知られています。

金三の絵は静物画がほとんどで、画題にはバラの花が多く取り上げられています。教師をしながら自宅の庭でバラを栽培し、それを描く事が金三の生活の中心でした。

金三は、絵の具の調合による変色を避けるため、成分表を傍らにおいて絵を描いていました。そのため、時を経ても描いたときの色合いが感じられます。